

変貌する石材と廃材

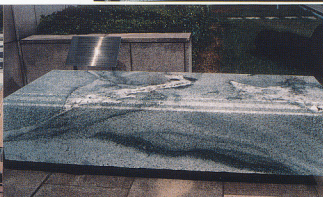
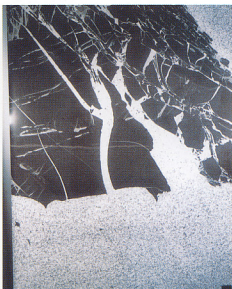
服部 仁(地質部)



1 (上左)、最高裁判所用石材を採掘した採石場(笠間市稲田の石切山脈南端、鶴タカタ西澤採石場から南方を眺める：1989年2月※)

(上右)、顕著な石の目、節理の一つ、典型的なシーティング(岐阜県恵那郡越川村田原、1990年6月※)

最近、風化した淡い黄褐色の花崗岩がのづら材(恵那さび石)として使われ始めた。



2 (中央左)、稲田花崗岩のなかの捕獲岩とそのまわりの縞模様(流星形の流理構造を示す：鶴タカタ岩倉採石場、1986年4月※、本誌20ページ、第5図参照)

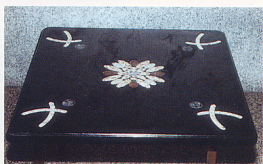
3、暗れの舞台に登場することができた廃材の展示品

(中央右)稲田花崗岩と捕獲岩との間に見える生き生きとしたマグマの貫入状況(地質標本館『郷土の地質』コーナー)。(下左)遊歩道に敷かれた世界の石材の端オ(つくば市並木の交番・郵便局前)、ラバキヒ花崗岩、石灰岩のスタイロライト、三波川変成岩類、筑波山周辺の花崗岩・斑れい岩などが多彩な端オ博物館になっており、目を楽ませてくれる。(下右)倉橋島花崗岩のなかのシュリーレンとベグマタイト(地質標本館入口右側)

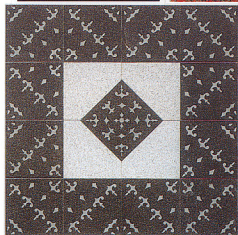
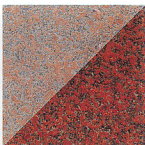
※印は筆者撮影、解説文は本誌10～24ページに掲載。



4. 表面仕上げの違いによる質感の差：本磨き(左)およびバーナー(右)。
 (上)、ポルトガル産のシェニトモンチーク=霞石閃長岩
 (下)、稲田花崗岩



5 (上)、石材なかでも貴石扱いの虎目石・ラピスラズリ・マ
 ラカイト・オニックスなどを組み合わせたイタリア
 の手工芸品(関ヶ原マールクラフト※)
 (下)、象眼(深く字を彫ったり、幾何学模様を彫られた凹地
 のなかに別種の石材を埋め込んで削った複合材)(博
 石館※)
 この作品は、南アフリカBelfast産の斑れい岩に、白
 色花崗岩・赤色花崗岩・エメラルドパールなどを埋め
 込んだもの。



6. 本磨き仕上げ後の薄板に、研磨材を噴きつけて(サンドブラスト法)特殊な模様を描く。別の色調の石材を組み
 合わせると、特殊な模様がさらに際立って見える(天然ミカゲ石エレガンスフロアー <7>)